

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891500054
法人名	医療法人 辻井循環器科内科
事業所名	グループホーム はあと
所在地	東温市田窪2054番地1
自己評価作成日	平成 26 年 2 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 3 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康管理が行き届いている。 職員が真面目に努力し精一杯対応できていて好感が持てる。 精神面、健康面でサポートしてくれる。 利用者は楽しく笑いあいながら毎日を送れている。 家庭的で寂しくなく温和に過ごしている。 環境も良く落ち着いた雰囲気もあり、明るいホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はオレンジの屋根が美しい木造の平屋造りで、木の温もりが伝わるような構造になっている。家庭的で清潔な環境の中で、管理者と職員は理念に沿って利用者の方々の暮らしを支えている。区長や民生委員から地域の情報を得て、地方祭や文化祭等の地域の行事に参加して地域住民と交流をしている。法人の管理栄養士が献立を作成し、カロリーや栄養のバランスも考えられた食事を利用者に提供している。母体法人の診療所と24時間体制での連携が取れており、利用者や家族は医療面で安心感がある。定期的な訪問診療をして利用者の健康管理をしているほか、看取り支援にも積極的に取り組んでいる。職員は法人内や外部の研修に参加してケアの向上に努めており、事業所では職員の資格取得も支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム はあと

(ユニット名) A館

記入者(管理者)

氏名 光田 陽子

評価完了日 平成 26 年 2 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 一人ひとりの個性を尊重し、地域に密着した生活を支援していく事を理念とし、地域に密着したグループホームを目指す事をあげている。</p> <p>(外部評価) 「①共に生きる ②一人ひとりの気持ちを大切にする ③きめ細やかな健康管理 ④地域の交流を大切にする」という現在の事業所独自の理念は、職員全員で話し合い法人の理念を分かりやすい表現に変えて作成している。理念は居間に掲示し、月1回のミーティングでも話し合いを行っており、管理者と職員は理念を共有しながら利用者一人ひとりのケアに取り組んでおり、利用者の日々の暮らしの中で実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地方祭、敬老会、文化祭などの地域の行事に利用者と共に参加したり、来訪により交流を持っている。管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声掛け合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるように日常的に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議等に参加している民生委員や区長から地域の行事などの情報を得たり誘いを受けて、地方祭や文化祭、小学校の運動会等に参加して交流をしている。毎月12日には近くにある隻手薬師に参拝しており、近隣住民とも散歩時に挨拶を交わしている。一人で外出して事業所に帰れなくなった利用者を、近所の方が声をかけ保護して下さった経験がある。また、法人内の他のグループホームの行事にも参加し、利用者同士が交流をしている。今後、近隣の幼稚園児との交流やボランティアの受け入れを検討している。</p>	今後も継続して地域との交流を深める取組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症に対する介護方法や理解などの相談にいつでものれるようにしている。ボランティア、研修の受け入れ体制がある。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 会議で出た貴重な意見を取り上げ、管理者や職員間で話し合い、サービスの向上に活かしている。報告書は会議参加者全員に配布している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、調剤薬局職員、鍼灸院職員等の参加を得て、法人の他のグループホームと合同で開催している。会議では事業所の報告をして参加者と意見交換をするほか、勉強会を開催する工夫をしている。</p>	<p>会議は地域の理解と支援を得るための貴重な機会であり、多角的に地域住民に参加を呼びかけ、様々な情報を得たり意見をもらうなど、サービス向上に具体的に活かしていくことを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進委員会などで交流を持っている。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、意見をもらっている。日頃から分からないことは相談するなど、連携が取れている。また、市主催の勉強会に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員間で身体拘束をしない方法での対応について話し合い、常に身体拘束のないケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 身体拘束のマニュアルを作成し、年1回は身体拘束等をテーマにした勉強会を行い、管理者と職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の重度化に伴い、安全を確保するためにやむを得ず拘束を行う場合は家族の同意を得て行き、最小限に留めている。玄関は自由に入出りできるが、ユニットへの入口とユニット間の戸は利用者の安全を考え施錠している。また、外出願望のある利用者には、職員が見守りをして対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し学んでいる。制度内容はミーティングなどで説明したり、内容書類を回覧して職員全員が把握できるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などで学び、報告書を作成して職員に内容を説明している。内容書類を回覧して職員全員が把握できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、ケアマネ、職員が詳しく説明をし、質問にも対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族さんからの意見や要望はいつでも受け付け、対応は管理者が行い計画担当者間で報告し合っている。	
			(外部評価) 日々の暮らしの中で、利用者の要望を聞き取るように努めている。家族には運営推進会議や面会時に意見を聞くようにしている。出された意見はミーティング等で職員間で話し合いケアに反映するように努めており、家族にも結果を報告するようにしている。また、介護計画の見直し時にはサービス担当者会議に家族に参加してもらい、意向を反映するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にミーティングを行い、管理者と職員間で話し合いをする機会を設けている。朝の申し送り時に管理者がそれぞれの意見や提案を聞く機会を持っている。	
			(外部評価) 職員にはミーティング等で意見や提案を出してもらい、事業所の運営に活かすようにしている。法人では、毎月テーマを決めて内部研修を開催しており、サービスの質を向上できるように職員研修に力を注いでいる。希望する外部研修にも職員が参加しやすいよう勤務調整をして参加することができ、研修資料は全職員に回覧し情報を共有できるようにしている。また、法人では職員の資格取得も支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員同士がお互いに協力し合い、時には競い合っているような勤務体制を心がけている。職員それぞれの得意な分野が活かされるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外部の研修会に積極的に参加し、報告会を持っている。研修資料は全員が目を通し、レポートを書いている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各種講習会や勉強会には積極的に参加し報告会を開いている。外部研修の受講時に同業者と交流を持ち、他のホームの取り組みを参考にしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) まず本人の話をよく聞き、相槌を打ち、こちらでも理解している事を分かってもらうようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者、ケアマネ、現場の職員と家族間で綿密にモニタリングを行い、家族の方の不安や心配事を聞き取るようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面接に置いて十分に話し合い、利用者や家族の意向に対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理の味見をしてもらうなど、色々教えて貰う事で共に学び生活できるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の生活状況を家族に伝えたり、話をする事でコミュニケーションを取り信頼関係を作り、本人を支える関係に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の生活歴を本人や家族さんに聞き、行事に活かしている。神社などのお参りにも行っている。 (外部評価) 利用者の希望に応じて、毎月12日に隻手薬師に参拝できるよう支援しており、利用者は楽しみにしている。彼岸になるとお墓参りや宝くじの購入の希望があるなど、個別に対応している。訪問による理美容の対応もしているが、行きつけの美容室に家族の協力を得て出かける利用者もいる。また、事業所には友人の訪問があることもあり、馴染みの関係が継続できるよう支援している。毎月、法人のデイサービスの利用者との交流をしており、利用者同士の親しい関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人一人の性格を把握し、より良いコミュニケーションがとれるよう着席などにも配慮している。自然と仲間意識が芽生え、お互いに助け合う場面が日常生活の中に見られる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了の際もきめ細かく引き継ぎ、説明を行い、アフターフォローをし、いつでも相談にのれるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来るだけ本人の希望に沿うようにしている。困難な場合は本人の主体性を尊重し、より良い決定が出来るように助言している。会話の困難な利用者については、家族や利用者をよく知る関係者から情報を得て本人の立場に立って考えるようにしている。 (外部評価) 利用開始前に利用者や家族から思いや意向を聞いて把握し、介護計画にも反映できるよう努めている。また、日々の生活の中で利用者から思いや希望を聞き把握するよう努めている。把握が困難な利用者には、職員全員が利用者の表情や行動から把握するよう努めている。新たに得た情報は申し送り時等で報告し、職員間で話し合いをするなど、共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や本人から利用者の生活歴を聞き、職員全員が把握しミニデイを開いたりしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 会話や行動、態度などを通して本人の希望やしたいと思っている事を察して援助するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) アセスメントに基づいて、利用者主体の目標を立てている。ミニカンファレンスで本人や家族の意見や要望を聞き、その後医師、看護師等も加わったカンファレンスで話し合い、本人本位の介護計画を作成している。サービス内容は具体的なものになっている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を確認し、医師や看護師を交えた職員の意見を取り入れて介護計画を作成している。利用者ができることを大切にしながら、実現可能な目標を設定し、その実現ができるよう努めている。毎月1回カンファレンスを開催し、職員が意見交換を行いながらモニタリングをしている。3か月に1回、介護計画の見直しをしている。また、利用者の状態に変化に応じて、その都度話し合いを行い、介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 経過表を記入し、ケア行動計画の実施状況を毎日チェックし、評価する事で状態変化をすぐに察知できるようにしている。特別変化のあった事は日誌に記入し申し送り、職員間で情報を共有している。3ヶ月に一度、見直しをしているが、状態変化があればその都度カンファレンスを開き新たに作成している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の要望や意見をカンファレンスで取り入れるようにしている。関連デイケアの活動に参加するなど、利用者の生活に広がりを持っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 他事業所と連携を取り、福祉用具のレンタルなど利用者一人一人に合わせたサービス提供を行っている。消防署、警察や地域包括センターなどの機関や民生委員やボランティア等と協力しながら支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 母体が診療所の為、入居前から殆どの方がかかりつけ医で あり、本人や家族は納得されている。定期的な往診や必要 時に往診や訪問看護を受けられる体制にある。主治医が利 用者の状態を把握できるように詳しく記録し提示してい る。緊急時にはすぐに対応できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 母体法人の医療機関の協力医を、利用者全員かかりつけ医 としている。月2回協力医の往診があり、利用者の健康管 理をしている。他の専門医は、家族が同行して受診するこ とができる。家族が同行できない場合は、利用者負担で介 護タクシーを利用して受診している。母体法人の医療機関 と24時間体制での協力体制が取れており、必要時に往診や 訪問看護を受けることができ、利用者や家族には安心感が 得られている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 診療所の看護師とは顔馴染みの為、いつでも相談に乗って もらえる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には情報を介護要約書や電話連絡にてスムーズに提 供し、綿密な連絡をとっている。定期的に面会し状態を把 握し、受け入れ体制を整えている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族の意向を聞き、主治医やケアマネ、職員や家族 間で話し合い方針を立てている。</p> <p>(外部評価) 「重度化した場合における対応に関する指針」を作成し、 利用開始時に利用者や家族に説明している。利用者の状態 に変化があった場合で、利用者や家族が看取り支援を希望 する場合は、再度説明を行い同意書をもっている。医療 的な処置を必要とする利用者もいるが、協力医との連携を 密に行いながら、安心して最期を看取ることができるよう 努めている。また、状態の変化など段階に応じて家族に説 明を行い、納得が得られるよう話し合っている。また、職 員が不安なく看取り支援が行えるよう研修を予定してい る。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルがあり、諸君全員が目を通し学習している。管理者から定期的に指導がある。AEDの設置に伴い、使用方法の説明を受けている、AEDの点検は毎日行なっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練を定期的に行なっている。緊急連絡網を作り全員に配布している。 (外部評価) 建物は火災防止のためオール電化し、スプリンクラーや自動火災通報装置などを設置し、緊急時に備えている。年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施しており、うち1回は応急処置の講習をしている。また、夜間を想定した訓練もしている。	地域住民に呼びかけ一緒に防災訓練を実施するなど、協力体制が築けるような取組みを期待したい。また、地域防災についても運営推進会議等で情報を得るなど、地域住民と相互に協力できる体制づくりを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に気配りを行い、丁寧な言葉遣いを心がけている。特に排泄面では気を付けている。また、職員同士でお互いに注意し合うようにしている。 (外部評価) 特に入浴やトイレ介助時に、利用者の羞恥心や尊厳に配慮して支援している。利用者の希望に応じて同性介助をしている。個人情報取り扱いに注意し、記録類は事務室の鍵のかかる場所で保管している。利用者への声かけにも気を付けており、職員と利用者の自然な会話から日頃の信頼関係を伺うことができる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 「受容」の姿勢を心がけ、利用者の希望に耳を傾け、出来る事を見極めケアプランにも盛り込んで日課として取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事や入浴、就寝など一人ひとりのペースに合わせて支援している。外出や買い物などの希望もその都度支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の希望に沿って対応している。 また、月に一度美容師が来ている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一日の献立を発表したり、食べたい物や調理方法などを利用者に聞いたりしている。職員も一緒に食事を摂り、感想などを聞き、次の献立や調理方法に活かしている。食事の準備や片付けを利用者が手伝ってくれる。	
			(外部評価) 献立は法人の管理栄養士がカロリーや栄養のバランスに気を付けて作成している。食事の準備や後片付けなど、利用者ができることを一緒に手伝っている。利用者の嚥下状態に合わせて刻み食やミキサー食に対応し、必要な栄養が摂れるよう工夫をしている。また、外食計画を立て出かけており、利用者が食事に楽しみが持てるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人別に水分、食事摂取量を付け、一日を通して摂取量が確保出来るよう職員が把握できるようになっている。水分は一日1200mlの摂取を目安にしている。食所量が少ない場合は栄養価の高い食品や飲み物をお勧めしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じた口腔ケアを行っている。歯ブラシ、クリーナーなどそれぞれ合った物を使用し、出来ない方への支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) プライバシーに配慮し、一人ひとりの出来る力に合わせた支援を行っている。失禁を減らすよう排泄時間を記入するなどして早めの対応をしている。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、個別に排泄を支援している。オムツを使用している利用者も多く、昼間や夜間にオムツ交換をしている。リハビリパンツにしている利用者は昼間はトイレ誘導しているが、夜間は状態に応じて睡眠を優先するなど個別に対応している。また、排便状態も把握し、便秘対策をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医に相談し、一人ひとりの状態に応じて排便コントロールしている。飲み物や食材に気を付けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に沿って臨機応変に対応している。状態の不安定な利用者や拒否のある利用者に対して、時間をおいたり翌日に変更したりと無理のない様になっている。	
			(外部評価) 週3回を基本として入浴することができ、午後から入浴する利用者が多い。リフト浴を設置しているが、現在使用している利用者はいない。入浴が苦手な利用者には無理強いすることなく声かけに工夫したり職員を交代したり、入浴日を変更するなど、気持ちよく入浴できるよう支援している。また、入浴できない場合には、利用者に清拭などをして清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) いつでも休息がとれるように居室やホール内をオープンにしている。昼夜逆転がないように日中の活動に気を付けている。夜間の明るさや利用者の声かけに気を付けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬についての表があり、薬に変更が合った時は目を通し、薬の効能などいつでも把握できるようにしている。ADLの低下により、服薬の管理、服薬援助は職員が行なっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事の好きな方は、洗濯畳みや掃除をしている。歌が好きな方は日常的にカラオケをしたりして笑顔が見られる。毎朝の目めくりを日課にして意欲的にされている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日に外に散歩に出たり、毎月隻手薬師の参拝も支援している。他館に行き話をしたり、家族の方が面会に来られると楽しくお話しされている。	
			(外部評価) 天気の良い日には近所を散歩している。利用者の希望に応じて、毎月12日には近くの隻手薬師に参拝したり、地域の行事に出かけたりしている。毎月、外出計画を立て、買い物やドライブ、外食、花見などに出かけられるよう支援している。また、家族と一緒に外出する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在、認知症の進行に伴い、金銭の管理が自分で出来る方はいません。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望がある時は電話をしている。 現在、手紙のやり取りをしている方はいません。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花を飾ったり、家族が花や野菜を持ってきてくれるので、飾ったり献立に盛り込んで利用者との会話も弾んでいる。居室からの外の眺めも良く、穏やかに過ごされている。</p> <p>(外部評価) 共用空間の居間は明るく、広々とした空間となっている。壁などには季節の飾りつけや生花を飾ったりしている。室内は適温に保たれており、臭いもなく掃除も行き届いている。職員がどこにいても利用者を見守ることができ、利用者は思い思いの場所で自由に過ごしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 強要せず本人のいたい場所で過ごしてもらっている。日中はソファで寛いだり、利用者同士で話している。また、他館との交流もあり、いつでも行き来できるように支援している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 以前から本人がしようしていた馴染みの物を置いたり、写真を飾ったり家族が持ってくる物を居室に置き、居心地良く過ごせるように配慮している。</p> <p>(外部評価) 居室は明るく広々としており、利用者は家庭から使い慣れたタンスやいす、馴染みの物や好みの物を持ち込み、居心地の良い空間づくりをしている。壁にはカレンダーや写真等飾られており、利用者一人ひとりの個性に合わせた居室となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレ、浴室に手すりを付けたり、居室やホールに危険な物がないか確認し配置を考えている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891500054
法人名	医療法人 辻井循環器科内科
事業所名	グループホーム はあと
所在地	東温市田窪2054番地1
自己評価作成日	平成 26 年 2 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 3 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康管理が行き届いている。 職員が普段から向上心を持ち、精一杯利用者さんと関わりを持っている。 精神面、健康面でサポートしてくれる。 利用者は楽しく笑いあいながら毎日を送れている。 家庭的で寂しくなく温和に過ごしている。 環境も良く落ち着いた雰囲気もあり、明るいホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はオレンジの屋根が美しい木造の平屋造りで、木の温もりが伝わるような構造になっている。家庭的で清潔な環境の中で、管理者と職員は理念に沿って利用者の方々の暮らしを支えている。区長や民生委員から地域の情報を得て、地方祭や文化祭等の地域の行事に参加して地域住民と交流をしている。法人の管理栄養士が献立を作成し、カロリーや栄養のバランスも考えられた食事を利用者へ提供している。母体法人の診療所と24時間体制での連携が取れており、利用者や家族は医療面で安心感がある。定期的な訪問診療をして利用者の健康管理をしているほか、看取り支援にも積極的に取り組んでいる。職員は法人内や外部の研修に参加してケアの向上に努めており、事業所では職員の資格取得も支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム はあと

(ユニット名) B館

記入者(管理者)
氏名 光田 陽子

評価完了日 平成 26 年 2 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 利用者一人ひとりの個性を尊重し、地域に密着した生活を支援していく事を理念とし、地域の交流を大切にしたグループホームを目指している。</p> <p>(外部評価) 「①共に生きる ②一人ひとりの気持ちを大切にする ③きめ細やかな健康管理 ④地域の交流を大切にする」という現在の事業所独自の理念は、職員全員で話し合い法人の理念を分かりやすい表現に変えて作成している。理念は居間に掲示し、月1回のミーティングでも話し合いを行っており、管理者と職員は理念を共有しながら利用者一人ひとりのケアに取り組んでおり、利用者の日々の暮らしの中で実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地方祭、敬老会、文化祭などの地域の行事に利用者と共に参加している。又、毎月12日は隻手薬師に参拝している。社会貢献の一つとして、古切手やペットボトルのキャップを集め、市役所や支援団体などに寄与している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議等に参加している民生委員や区長から地域の行事などの情報を得たり誘いを受けて、地方祭や文化祭、小学校の運動会等に参加して交流をしている。毎月12日には近くにある隻手薬師に参拝しており、近隣住民とも散歩時に挨拶を交わしている。一人で外出して事業所に帰れなくなった利用者を、近所の方が声をかけ保護してくださった経験がある。また、法人内の他のグループホームの行事にも参加し、利用者同士が交流をしている。今後、近隣の幼稚園児との交流やボランティアの受け入れを検討している。</p>	今後も継続して地域との交流を深める取組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症に対する介護方法や理解などの相談にいつでものれるようにしている。ボランティア、研修の受け入れ体制がある。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 会議で話し合った中で出た意見を取り上げ、管理者や職員間で話し合い、サービスの向上に活かしている。報告書は会議参加者全員に配布している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、調剤薬局職員、鍼灸院職員等の参加を得て、法人の他のグループホームと合同で開催している。会議では事業所の報告をして参加者と意見交換をするほか、勉強会を開催する工夫をしている。</p>	<p>会議は地域の理解と支援を得るための貴重な機会であり、多角的に地域住民に参加を呼びかけ、様々な情報を得たり意見をもらうなど、サービス向上に具体的に活かしていくことを期待したい。</p>
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進委員会などで交流を持っている。市役所主催の研修会等に積極的に参加し、交流を深めると共に連携を図っている。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、意見をもらっている。日頃から分からないことは相談するなど、連携が取れている。また、市主催の勉強会に参加している。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 精神興奮時や、暴力行為の見られる利用者に対し、身体拘束をせず対応する方法について職員間で話し合い、より良い方法を導き出し、常に身体拘束のないケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 身体拘束のマニュアルを作成し、年1回は身体拘束等をテーマにした勉強会を行い、管理者と職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の重度化に伴い、安全を確保するためにやむを得ず拘束を行う場合は家族の同意を得て行き、最小限に留めている。玄関は自由に入出りできるが、ユニットへの入口とユニット間の戸は利用者の安全を考え施錠している。また、外出願望のある利用者には、職員が見守りをして対応している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し学んでいる。制度内容はミーティングなどで説明したり、内容書類を回覧して職員全員が把握できるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などで学び、報告書を作成して職員に内容を説明している。内容書類を回覧して職員全員が把握できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、ケアマネ、職員が詳しく説明をし、質問にも対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族さんからの意見や要望はいつでも受け付け、対応は管理者が行い計画担当者間で報告し合っている。 (外部評価) 日々の暮らしの中で、利用者の要望を聞き取るように努めている。家族には運営推進会議や面会時に意見を聞くようにしている。出された意見はミーティング等で職員間で話し合いケアに反映するように努めており、家族にも結果を報告するようにしている。また、介護計画の見直し時にはサービス担当者会議に家族に参加してもらい、意向を反映するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎朝の申し送りや提案したり、月に一度職員同士が話し合った事を管理者に報告している。	
			(外部評価) 職員にはミーティング等で意見や提案を出してもらい、事業所の運営に活かすようにしている。法人では、毎月テーマを決めて内部研修を開催しており、サービスの質を向上できるように職員研修に力を注いでいる。希望する外部研修にも職員が参加しやすいよう勤務調整をして参加することができ、研修資料は全職員に回覧し情報を共有できるようにしている。また、法人では職員の資格取得も支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員同士が得意分野を活かせるように話し合いをしている。他の人の良い所も見習うように心がけている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 自施設での研修に加え、外部の研修にも積極的に参加している。研修後はレポートを書き全員が閲覧できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 外部の研修や勉強会に参加した時に他の施設の方とお話し、自分のホームでも参考にしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の話を聞き、何がしたいか、どう過ごしたいかを理解するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) はじめに管理者、ケアマネ、職員が家族さんの希望や不安な事、家庭で困っている事などを聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) はじめの面接で家族さんと本人とよく話し合い、要望に対応するようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来る範囲のお手伝いをしてもらっている。 掃除、洗濯物の取り込みや畳む事。 草ひき等も一緒にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の生活状況を書いた手紙を毎月送っている。他にも何かあれば電話したり、面会に来られた時にお話ししている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事に参加している。 近所の神社にお参りも行っている。 (外部評価) 利用者の希望に応じて、毎月12日に隻手薬師に参拝できるよう支援しており、利用者は楽しみにしている。彼岸になるとお墓参りや宝くじの購入の希望があるなど、個別に対応している。訪問による理美容の対応もしているが、行きつけの美容室に家族の協力を得て出かける利用者もいる。また、事業所には友人の訪問があることもあり、馴染みの関係が継続できるよう支援している。毎月、法人のデイサービスの利用者との交流をしており、利用者同士の親しい関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの性格、他の人の関わりを把握し、良いコミュニケーションがとれるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了の際もきめ細かく引き継ぎ、説明を行い、アフターフォローをし、いつでも相談にのれるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望を聞き、本人が意思表示が出来ない時は家族さんの意見、希望を聞き、出来る限り取り入れている。 (外部評価) 利用開始前に利用者や家族から思いや意向を聞いて把握し、介護計画にも反映できるよう努めている。また、日々の生活の中で利用者から思いや希望を聞き把握するよう努めている。把握が困難な利用者には、職員全員が利用者の表情や行動から把握するよう努めている。新たに得た情報は申し送り時等で報告し、職員間で話し合いをするなど、共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族さんに十分話を聞き、職員が把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 各人のADL表やフェイスシートに目を通してしている。毎日の生活の中で会話や行動を見て知る事が出来る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月毎、体調に変化があった時はケアプランを見直している。家族にも来てもらい、カンファレンスを行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を確認し、医師や看護師を交えた職員の意見を取り入れて介護計画を作成している。利用者ができることを大切にしながら、実現可能な目標を設定し、その実現ができるよう努めている。毎月1回カンファレンスを開催し、職員が意見交換を行いながらモニタリングをしている。3か月に1回、介護計画の見直しをしている。また、利用者の状態に変化に応じて、その都度話し合いを行い、介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 経過表の記入、ケアプランのチェック、カルテ記入を毎日行なっている。 また、ミニカンファレンスで3ヶ月毎に話し合っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の要望をカンファレンスで取り入れるようにしている。 デイサービスや地域のイベントにも参加している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員、地域包括センターなどの機関に協力を得ながら支援している。 消防署に協力をお願いし、避難訓練を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 月2回往診がある。 他に必要に応じて外科、皮膚科、歯科などの受診・往診を お願いしている。</p> <p>(外部評価) 母体法人の医療機関の協力医を、利用者全員かかりつけ医 としている。月2回協力医の往診があり、利用者の健康管 理をしている。他の専門医は、家族が同行して受診するこ とができる。家族が同行できない場合は、利用者負担で介 護タクシーを利用して受診している。母体法人の医療機関 と24時間体制での協力体制が取れており、必要時に往診や 訪問看護を受けることができ、利用者や家族には安心感が 得られている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 母体が診療所であるため、看護職との密な連携が可能であ る。必要時はすぐに相談し、迅速に対応している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時、文書や電話にて情報を提供している。 面会に行ったり家族から状況を伺い把握している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族の希望をお聞きし、主治医、ケアマネ、職員間できち んと話し合いをしている。</p> <p>(外部評価) 「重度化した場合における対応に関する指針」を作成し、 利用開始時に利用者や家族に説明している。利用者の状態 に変化があった場合で、利用者や家族が看取り支援を希望 する場合は、再度説明を行い同意書をもっている。医療 的な処置を必要とする利用者もいるが、協力医との連携を 密に行いながら、安心して最期を看取ることができるよう 努めている。また、状態の変化など段階に応じて家族に説 明を行い、納得が得られるよう話し合っている。また、職 員が不安なく看取り支援が行えるよう研修を予定してい る。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルがあり、諸君全員が目を通し学習している。管理者から定期的に指導がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練を定期的に行なっている。緊急連絡網を作り全員に配布している。 (外部評価) 建物は火災防止のためオール電化し、スプリンクラーや自動火災通報装置などを設置し、緊急時に備えている。年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施しており、うち1回は応急処置の講習をしている。また、夜間を想定した訓練もしている。	地域住民に呼びかけ一緒に防災訓練を実施するなど、協力体制が築けるような取組みを期待したい。また、地域防災についても運営推進会議等で情報を得るなど、地域住民と相互に協力できる体制づくりを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に気配りを行い、丁寧な言葉遣いを心がけている。特に排泄面では気を付けている。また、職員同士でお互いに注意し合うようにしている。 (外部評価) 特に入浴やトイレ介助時に、利用者の羞恥心や尊厳に配慮して支援している。利用者の希望に応じて同性介助をしている。個人情報の取り扱いに注意し、記録類は事務室の鍵のかかる場所で保管している。利用者への声かけにも気を付けており、職員と利用者の自然な会話から日頃の信頼関係を伺うことができる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 「受容」の姿勢を心がけ、利用者の希望に耳を傾け、出来る事を見極めケアプランにも盛り込んで日課として取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望によって支援している	(自己評価) 食事や入浴、就寝など一人ひとりのペースに合わせて支援している。外出や買い物などの希望もその都度支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の希望に沿って対応している。 また、月に一度美容師が来ている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員も一緒に食事を摂り、感想などを聞き、次の献立や調理方法に活かしている。食事の準備や片付けを利用者と共にし、良い献立作り、楽しい食事に努めている。	
			(外部評価) 献立は法人の管理栄養士がカロリーや栄養のバランスに気を付けて作成している。食事の準備や後片付けなど、利用者ができることを一緒に手伝っている。利用者の嚥下状態に合わせて刻み食やミキサー食に対応し、必要な栄養が摂れるよう工夫をしている。また、外食計画を立て出かけており、利用者が食事に楽しみが持てるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人別に水分、食事摂取量を付け、一日を通して摂取量が確保出来るよう職員が把握できるようになっている。水分は一日1200mlの摂取を目安にしている。食所量が少ない場合は栄養価の高い食品や飲み物をお勧めしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じた口腔ケアを行っている。歯ブラシ、クリーナー、舌ブラシなどそれぞれ合った物を使用し、出来ない方絵の支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 個人のプライバシーには十分配慮し、利用者一人ひとりの排泄パターンを知り、必要に応じて声かけやトイレ誘導を行い支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、個別に排泄を支援している。オムツを使用している利用者も多く、昼間や夜間にオムツ交換をしている。リハビリパンツにしている利用者は昼間はトイレ誘導しているが、夜間は状態に応じて睡眠を優先するなど個別に対応している。また、排便状態も把握し、便秘対策をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 排便の有無の確認を行っている。 食事や水分など、一人ひとりに応じた取り組みを行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 週3回入浴を行っている。 入浴前に声かけを行い、本人の希望があればいつでも入浴している。</p> <p>(外部評価) 週3回を基本として入浴することができ、午後から入浴する利用者が多い。リフト浴を設置しているが、現在使用している利用者はいない。入浴が苦手な利用者には無理強いすることなく声かけに工夫したり職員を交代したり、入浴日を変更するなど、気持ちよく入浴できるよう支援している。また、入浴できない場合には、利用者に清拭などをして清潔保持に努めている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 個人の体調に合わせ、居室での休憩時間を設けている。その日その日の状態によって対応している。夜間眠れない人がいたらその原因を探り眠れるよう支援している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 主治医の説明を受け、服薬の必要性を理解し支援している。用法、副作用についての疑問点などは、カンファレンス等で薬剤師に訊いている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人をしっかりアセスメントして、好きな事ややりたい事を知り支援している。 また職員全員でその事を共有している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は外に体操に出かけている。 その日に「散歩に行きたい」と意思表示されると、その都度対応している。地域での行事にも参加している。	
			(外部評価) 天気の良い日には近所を散歩している。利用者の希望に応じて、毎月12日には近くの隻手薬師に参拝したり、地域の行事に出かけたりしている。毎月、外出計画を立て、買い物やドライブ、外食、花見などに出かけられるよう支援している。また、家族と一緒に外出する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人が使えない場合は職員が代わりに買い物に行き手助けしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書きたいと利用者が謂うと職員が手伝いながら書いて出している。 希望があれば電話をしてもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) その月や季節に合わせた飾りを職員や利用者と一緒に飾っている。</p> <p>(外部評価) 共用空間の居間は明るく、広々とした空間となっている。壁などには季節の飾りつけや生花を飾ったりしている。室内は適温に保たれており、臭いもなく掃除も行き届いている。職員がどこにいても利用者を見守ることができ、利用者は思い思いの場所で自由に過ごしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 本人の好きなようにしてもらっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 今まで使っていた物を置いたり、写真を飾ったりして配慮している。</p> <p>(外部評価) 居室は明るく広々としており、利用者は家庭から使い慣れたタンスやいす、馴染みの物や好みの物を持ち込み、居心地の良い空間づくりをしている。壁にはカレンダーや写真等飾られており、利用者一人ひとりの個性に合わせた居室となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 個人の状態に合わせて本人が落ち着いて過ごせるように配慮し、職員が常に見守りを行っている。</p>	